

下水管渠及びマンホールの再度災害防止

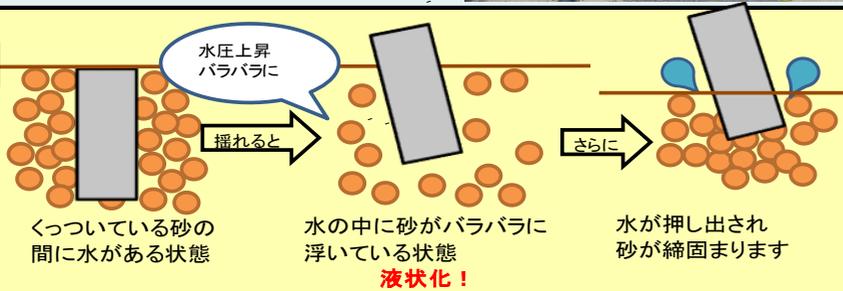
— 下水道施設の液状化対策 —

下水道の被害は？



- 平成23年 3月11日に発生した東日本大震災による液状化現象によって、県内の下水道施設にも多くの被害が発生。
- 液状化によってマンホールが浮き上がったり、下水管が上下に蛇行したりしたため、下水が流れなくなって、トイレなどが使えなくなる地区が多く発生。

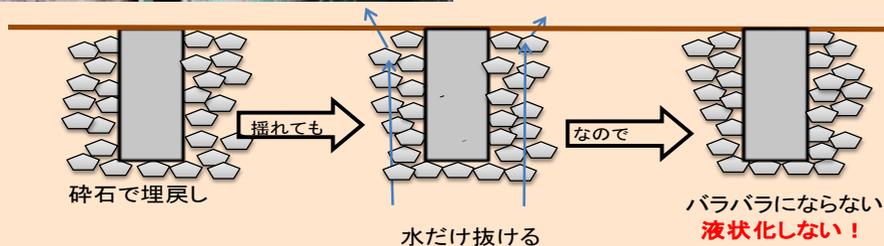
原因は？



- 道路に穴を掘って設置されたマンホールや下水管などの下水道施設は、周辺の地盤が液状化(*)したことで動きやすい状態。

(※液状化現象とは、地下水位の高いゆるい砂地盤などが、地震動によって地盤がゆるんで泥水のような状態になってしまう現象)

対策と効果は？



- 主に液状化対策として、透水性の高い埋戻し材である「砕石」を採用。
- このことにより、大地震があってもトイレやお風呂、台所などが使えなくなるのを防止。

